

石 すとーん・さーくる

No.93

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子) 2015年9月15日 発行
事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941
ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

長岡大積町の馬頭観音像

長岡市 荒 井 昭

国道8号線沿いの大積町二丁目交差点から、旧越路町へ通じる峠越え地方道へ入ります。一〇〇mほどで右手に二丁目公民館があり、馬頭観音が建立されています。像容は三面四臂・印相は明王馬口印（馬頭印）。左側面の刻銘は風化がひどく不明。地元の古老杉本栄一さんを訪ね、話を伺いました。

公民館前の馬頭観音像は、もとは我が杉本家のすぐ脇の農道沿いに建てられていた。何時ごろ誰が建立したかはわからない。昔は我が家家の屋敷うちに一寸した広場があった。この広場がかつての牛の爪切り場だった。農家で飼っている牛は、年に一~二回は爪切りをした。集落内の二十頭余りの牛が集まり、広場に繋がれて順番待ちを

したものだ。牛や馬は貴重な農家の労働力、家族同様に扱われ大切にされていた。集落の人たちは牛の爪切り供養にと、馬頭観音さんを建てたと思われる。

終戦後、時代も大きく変わり、人々の生活も変わった。馬頭観音像も新しい国道沿いに移され、公民館設置で現在の場所に移設された。杉本さんのお話の要約です。

※虫供養・山菜供養塔などと同じく、人々の祈りや感謝の気持ちを込め建立された石仏といえましょう。私の住む関原地域の柴山神社脇にも牛の爪切り場がありました。爪切り供養の馬頭観音像が建てられています。



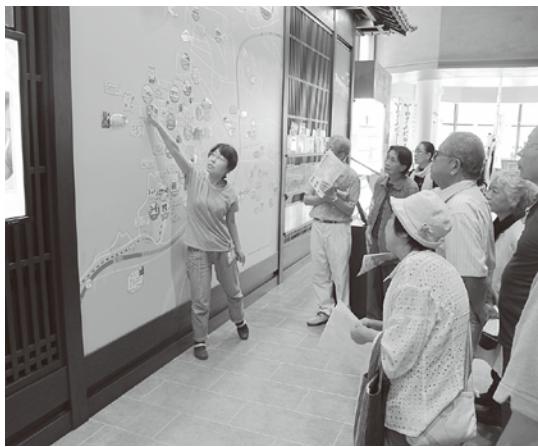
若狭小浜の 地蔵盆を歩く

上越市 やまだ漫歩

八月二十二、二十三両日、有志一泊見学会に参加した。各地からの参加者十九名を乗せてバスは一路北陸高速道を西に向かつた。以下見学の概要を記す。

◆御食国若狭

古代若狭国は伊勢・志摩・淡路と共に朝廷に御食（天皇の御食料）を納めてきた。最初に訪れた「御食国若狭おばま食



一矢典子学芸員から説明を受ける

文化館」では学芸員・一矢典子さんの案内で古今東西の食文化をビジュアルに紹介するミュージアムを見学し、若狭のみならず日本食の多様性と奥深さを感じた。



小浜西組・三丁町の風情を愉しむ

◆城下の町歩き

日本海側の港で都に近い小浜は、古代大陸との交易の玄関口として、又近世北前船の寄港地として栄えた。最盛期小浜藩城下の町人町は湾沿いに東・中・西組五十二町に分けられ、今も西組二丁町界わいは重要伝統的建造物群保存地区として往時の町屋の風情が残る。地図を片手に八幡神社・空印寺・常高寺・高成寺等

の社寺を結ぶ町並み散策を楽しみつつ湾岸の温泉宿を目指した。

◆子供たちの地蔵盆

二日目のメインは地蔵盆の見学であった。小浜のそれは子供たちの無病息災を願う、子供たちが主役のまつりである。平素は町の辻々の祠に祀られているお地蔵様を取り出して海水で洗い、絵具で彩色（化粧）し、組立式の地蔵堂や会館等に安置する。「南無地蔵大菩薩」と書かれた五彩のハタを葦竹に吊り下げ、賽銭箱を置く。堂守は子供たちの役目でお参りに来た人に太鼓や鐘を打ち鳴らし、



地蔵堂で子供たちが鳴り物ではやす

「あーりがとさ」とはやす。祭りが終ると供物の菓子や賽銭は子供たちで分け合う。行く先々でお賽銭を上げ、財布の小銭は空になってしまった。少子化の進む中、子供たちの地蔵盆がいつまでも続く事を願う。



五色の旗に飾られた地蔵堂（仮設）

若狭一之宮上社若狭彦神社、下社若狭姫神社を詣で、お水送りの寺神宮寺と鵜の瀬を訪れた。奈良東大寺二月堂の「お水取り」はつとに名高い。その聖なる水「闕伽水」を汲みあげる「若狭井」はるか離れたこの地と水脈でつながっているのだという。

◆お水送りの事

◆鯖街道熊川宿

古代より若狭の海産物が都に運ばれたルートはいずれも小浜を起点として三筋あるが十八世紀後半からは鯖を塩漬けにして都へ運ぶようになり、「鯖街道」と呼ばれた。熊川宿は小浜から大原・八瀬を経て京へ至る街道の宿場で、平入りと

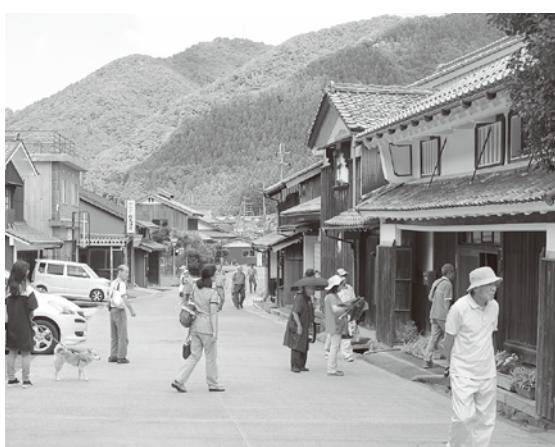
毎年三月二日の夜、神宮寺から上流約二キロメートルの鵜の瀬へ三千人の松明が火の帶となつて連なり、河原で御香水を注ぐ「お水送り」の神事が行われる。千数百年に及ぶ悠久のロマンがここにあら。



水送り神事の鵜の瀬

妻入りの町屋が混じつて建ち並び流れの速い水路が町並みに沿つて流れる。昼食に鯖寿司御膳をいただく予定のところ鯖の入荷が無く、イカ丼と越前そば（葛そば）に変更となつたが、こちらもなかなか美味であった。幸いにして食べそこねた鯖寿司は、宿場のはずれの道の駅でお土産に買入れできた。

こうして一泊二日の旅は期待を上回る成果をあげて終了した。この旅を企画していただいた渡邊事務局長に感謝し、来年は、もっと多くの会員の参加を期待して筆を置く。



鯖街道として栄えた熊川宿

事務局だより



◇新潟地区秋の石仏探訪会のご案内

日 時 10月15日(木) 10時～16時
テー マ 三國街道中通りを歩く

探訪地
法音寺大日堂、島潟の石造物、
西浦神社境内、貝塚八幡宮、貝
屋宝蔵寺石仏群、大桜峠の石造
物、その他

集 合
新発田カルチャーセンター駐車
場

白新線新発田着9時28分あり
(迎えに出来ます)

参加費
3500円(昼食代含む)

定 員
20名(マイクロバス利用)

申込み
大木禪爾 TEL 0256-72-6913 携帯090-1557536

見学地
【午前】川内・矢津地区 ①永
谷寺(おぼと石) ②福泉寺
昼食(ふるさと会館予定)

【午後】戸倉地区 ③長寿院(蟹
供養塔)ほか
9時30分新津駅(解散16時)

往 長岡駅発8時9分→新津駅
着9時6分
復 新津駅発16時31分→長岡駅
着17時25分
自家用車の方は新津駅有料駐車
場(1日500円)を利用。

参加希望者へ後日郵送します。
10月5日までにハガキかFAX
で左記へ

岩野笙子 ☎ 959-2034
阿賀野市緑町22-8
fax 0250-62-0070

◇下越地区見学会のご案内

日 時 10月26日(月) 9時30分～16時
テー マ 村松地区の石仏めぐり—永谷寺
の「おぼと石」を中心として—

講 師 駒形 豹氏(新潟県民俗学会前
会長)

日 時 11月15日(日) 10時～16時
会 場 新潟県生涯学習推進センター

参加費 3500円(マイクロバス代・
昼食代・資料代等含む)

は事前にお知らせください。
昼食は予約します。必要ない方

第一部 10時～公開講演会
題 演題「縄文人の石造文化」(仮)

定 員 20名
見学地 【午前】川内・矢津地区 ①永
谷寺(おぼと石) ②福泉寺
昼食(ふるさと会館予定)

第一部 13時30分～調査研究報告(3
時間)
講師 佐藤雅一氏(津南町教育
委員会)

第二部 15時30分～情報交換
名ほど
第三部 15時30分～情報交換
名ほど

※詳細は後日往復はがきにてご案内し、
出欠等を確認します。

◇石仏フォーラム発表者の募集

前記「石仏フォーラム」で第二部に予
定の調査研究報告の発表者を募集します。
ご自身の調査研究をはじめ見学会報告で
も結構です。時間は30分～45分程度で3
～4名を予定します。ご希望の方は事務
局へ10月10日(土)までにご連絡ください。

編集後記

小浜の地感溢で「マイテンノー」「ア
リガトサ」と子供たちの掛け声に感動
しました。長岡の美術館では、写真家
濱谷浩が、桑取の鳥追いの歌を歌つて
いました。

(中越地区事務局・山崎利雄)

◇第19回石仏フォーラムのご案内